

先端計測分析技術・機器開発プログラム 現在の推進体制

資料2-3
科学技術・学術審議会 先端研究基盤部会
研究開発プラットフォーム委員会
先端計測分析技術・機器開発小委員会(第5回)
平成24年5月25日

文部科学省(先端計測分析技術・機器開発小委員会)

基本方針を通知 ↓

↑ 自己検証結果を報告

【推進委員会】

- ・プログラムの実行方策の検討、プログラムの推進(公募、採択、評価)を一体的に担う。
- ・林PD(委員長)、平井総括、佐藤総括、澤田開発総括、尾形開発総括、市川分科会長、石渡副分科会長、二瓶委員、西島委員で構成。

【総合評価分科会】

- ・全ての開発課題の中間評価・事後評価を担う。
- ・重点開発領域を除いて、課題選定を担う。
- ・市川分科会長、石渡副分科会長ほか委員(14名)で構成。
(領域総括、開発総括はオブザーバーとして出席)

- ・採択課題は、「開発総括」が役割分担の下で進捗管理。
※従来と同様のスキーム

【開発成果の活用・普及促進ワーキンググループ】

- ・総合評価分科会の役割のうち、開発成果の活用・普及促進の課題選定、事後評価を担う。
- ・総合評価分科会委員(5名)、有識者(4名)で構成。

【放射線計測領域分科会】

- ・実用化タイプ(短期開発および中期開発)と革新技術タイプ(要素技術および機器開発)の4種類の公募枠が存在。
- ・当該領域における課題選定を担う。
- ・平井領域総括ほか澤田開発総括、総合評価分科会委員(2名)、有識者(10名)で構成。

- ・重点開発領域の採択課題は、「領域総括」を中心とする分科会が当該領域全体を俯瞰して進捗管理。
- ・中間評価、事後評価は、透明性確保の観点から、総合評価分科会が実施

【グリーンイノベーション領域分科会】

- ・要素技術と機器開発の2種類の公募枠が存在。
- ・当該領域における課題選定を担う。
- ・佐藤領域総括ほかで構成。

※いずれの委員会・分科会・ワーキンググループにおいても文部科学省のほか、関係行政機関等がオブザーバーとして出席